

和讃と聞く

其の二九一

親鸞さまの

【本文】

みだだいひ せいがん
弥陀大悲の誓願を

ふかく信ぜんひとはみな

ねてもさめてもだてなく

南無阿弥陀仏をととなえし

【意記】

大なるお慈悲を以てお救いになる
阿弥陀様の誓いと願いを

素直に聞き信じる人は皆

寝ても覚めても変わることもなく

感謝の思いで南無阿弥陀仏をお称え
とさせたいだきましよう。

【私の味わい】

先日観た映画「コーダ あいのうた」が とても印象的でした。両親 きょうだいと
もに耳が聞こえない家族に、一人だけその障害がない娘さんがいました。その娘さん
は とても素晴らしい歌声の持ち主で、将来を嘱望されるほどの才能がありました。
しかし、家族は音楽を聴くことが出来ないので、その能力の程をいや音楽そのものが
どういふものであるかが分かりません。しかし、父親は娘の歌声に酔いしれる人々の姿
を見、手話でその歌の内容を知り、娘ののどに手を置くことで伝わってくる振動を感じ
ることで音楽に触れていきます。音楽を通して心通し合う親子、家族の絆を描く素晴
らしい作品でした。

音楽は単に音だけでなく、聴く人の表情に、言葉に、響きに表れる。

これは、南無阿弥陀仏も同様ではないでしょうか。

法話を聞く人の表情に、お念仏を称える人の手に、お経という言葉に、お輪の響き

に、お焼香の香りに、お仏像のお姿に。言葉だけでは捉えきれない、心だけでは捉えき
れない、無限の表れとして私の所に在しますまものが、阿弥陀様であると思います。この意

味、法話は何度聞いても聞き切ることはできず、お念仏は称えても称え切ることはで
きません。理解し尽くした、感謝しつくしたと思つた瞬間に、それは既に無限に対する
誤解をすることに他ならないからです。聞いて、称えて、読んで、触れて、感じて、考え

て、見。そこに阿弥陀様と心通し合う世界が育まれるのです。

(悠木

